

特集：ケルン・サミットの成果

# グローバル化に バランスよく対応し 人々の利益に結びつける

第25回サミット(主要国首脳会議)が6月18日から3日間、ドイツのケルンで開かれました。G8(主要8か国)首脳による様々な討議の中で、ここ数年サミットのテーマになっているグローバル化(市場経済の世界的な広がり)への対応、地域紛争の解決といった課題にどんな方向性が見いだされたのか。総理の個人代表を務めた、原口幸市・外務省外務審議官に話を聞きました。

外務省外務審議官

原口 幸市

インタビュー

高橋 めぐみ

高橋 サミットのお話を伺う前に、今回の舞台になったケルンという町がどんなところなのか教えてください。

原口 ケルンはライン川沿いにある町で、これまでドイツの首都だったボンから車で二十分ぐらいのところにあります。ローマ帝国時代からの都市で、遺跡などもまだまだ少残っています。サミットの会場の一部にもなったローマ・ゲルマン博物館は、ローマ帝国時代の遺跡を集めたところで、当時のモザイクの床も保存・展示されています。首脳によるワーキング・ディナーやランチが行われましたが、その時には、そのモザイクの床に強化ガラスを敷いて、その上にテーブルを置いて食事をしながら討議するという場面もありました。

高橋 映画のワンシーンのようですね。

原口 ケルンには有名な大聖堂があって、その大聖堂には二つの尖塔せんとうがあるんです。今回のサミットのロゴマークにも描かれています。ドイツ国旗の色である黒と赤と黄色の点が八つ、つまりG8(主要8か国)ですね。それに二つの青い三角形(尖塔)で表されているんです。「グラビア参照」。

高橋 おしゃれで素敵なロゴですね。

高橋さん サミットの重要性が今後更にも増す中で、アジアから唯一参加している日本の務めも注目されますね



日本には、アジアの人たちの希望や意見をよく聞き、サミットでの議論に反映させていく責務があります 原口外務審議官

## INTERVIEW

### コソヴォ問題を機に G8の団結を再確認

高橋 コソヴォ紛争の行方が注目される中で開かれ、また、小淵総理にとっては初めての参加となった今回のケルン・サミットですが、まず、全体の印象についてお聞かせください。

原口 コソヴォでの事態がありましたから、開催前には今回のサミットは専らコソヴォ・サミットになるのではないかと言われていました。ところが幸いなことに、直前にヘルシンキでロシアとNATO（北大西洋条約機構）との間で合意が成立しましたので、サミットの場でロシア首脳とNATOメンバーの首脳とが対決するというような事態は避けられました。

その結果、まずG8自身がコソヴォの問題を解決する上で非常に重要な役割を果たしたということ、そして、ロシアと他国との対決が避けられて、そこで改めて首脳レベルでG8の団結が確認されたということです。もちろんコソヴォ問題だけ討議しているわけではありませんが、とても有意義なサミットだったと思います。

小淵総理にとつて、首脳会合への参加は確かに初めてですけれど、参加された他の首脳とは以前から面識がありますから、和気あいあいといった感じの中で、日本として主張すべき点をはつきりと主張されていたのが印象的でした。

## 日本の経済政策に 期待と評価を示したG7

高橋 いま、日本経済は世界から注目されています。経済指標がやや上向きになりつつあるものの、依然として厳しい状態にあります。そうした中で、サミット開催前に雇用対策として五千億円を超える補正予算の編成が決まったわけですが、こうした国内の景気・雇用対策について、小淵総理はサミットの間でどのように説明されたのですか。

原口 各国とも日本経済の現状、行く末についてはたいへん強い関心を持っています。私は昨年のバーミンガム・サミットにも出席しましたが、その時に比べると、今年のほうが日本経済の状況が良くなっていることは間違いなく、直

前には第1・四半期が一・九%のプラス成長といった明るい指標も発表されました。総理自身も、いまが正念場だ、何とか努力して年度を通してプラスの成長にもってきたいと話されました。それに対して各国とも、ぜひ頑張ってくださいということでした。日本経済が良くなるということは、自分たちにとつても世界全体にとつても非常に重要な要素ですからね。

高橋 そうですね。

原口 雇用の問題についても、日本はただ単に財政支出をして景気を刺激するというだけではなくて、構造改革、供給面での改革を進めていることも併せて説明しました。G7首脳声明では、日本経済に対し、



原口 幸市 外務省外務審議官

はらくち こういち/昭和15年生まれ。東京都出身。39年外務省入省。大臣官房外務参事官、在ロス・アンジェルス総領事、経済局長、官房長などを経て、平成9年8月から現職。

財政刺激策と構造改革の継続が求められていますが、日本政府がいま行おうとしていることは、正にこうした注文に合致しているわけです。その意味で、G7の首脳からは日本にぜひこのまま頑張ってくださいという期待と、これまでの経済政策についての強い支持と評価が表明されたわけです。

## 国際金融システム改革で 一定の成果

高橋 昨年のサミットから引き続いてアジア経済の安定という問題がテーマに上げられました。これについての取組をどのように促されたのでしょうか。

原口 日本はアジアからの唯一の参加国です。世界経済を議論する時に、アジアの現状あるいは行く末をどう見ているかという意見を述べるのに最適の立場にあるのは日本の総理です。小淵総理がいま、アジアの経済状況をどう見ているかという話をされたのに対して、各首脳はたいへん興味深く耳を傾けておりました。

アジアの経済危機は、バーミンガム・サミットでも大きな問題として取り上げられました。バーミンガムでは、経済危機を再

び起こさないための検討を進めることになり、その後一年間にわたって専門家の方たちが議論してきたわけです。その成果が今回、事前に行われた蔵相会合で、「国際金融システムの強化・改革に関する報告書」という形でまとまりまして、これが首脳レベルに上げられて、採択されたわけです。

報告書には、アジアの国々が今後国内で進めていくべき改革の方向と先進国側が更に進めていかなければならない政策、また、システム自体の改革の必要性が示されています。報告書の内容を遵守していけば、今後の国際金融の健全性に良い影響を及ぼすものと確信します。これは今



高橋 めぐみ フリーアナウンサー

たかはし めぐみ/東京都出身。ゴルフ番組でナレーター、プロ野球やJリーグでリポーターを務めるなど、スポーツ番組を中心に幅広く活躍している。

回のサミットの成果の一つとして誇ってよいのではないのでしょうか。

### 途上国の経済的自立を促しつつ 各国の公平な負担で債務削減

高橋 日本は、最大のODA（政府開発援助

助）債権国ですけれども、その立場を踏まえて、途上国の債務救済問題についてどのように主張されたのですか。

原口 途上国の中でも特に債務が大きい重債務貧困国（HIPC）と称される一群の国々は、いまや債務を払えない状況になっています。債務の返済を続けなければ経済的な自立ができないということで、これまでもサミットの枠内でいろいろな債務軽減策がとられてきました。にもかかわらず、依然として経済的自立のめどが立たない状態です。そこで、この際思い切って大幅に、迅速に、かつ対象範囲を広げるような形で新しい債務削減を図ろうではないかと、ドイツのシュレーダー首相がイニシアティブをとったわけです。これらの国々に対する日本のODA債権はG7全体の四割強を占めており、おっしゃったように日本は最大の債権国です。ですから、債権を放棄するとすると日本が一番大きな財政負担を負うことになるので、債務削減は決して容易な決断ではありませんでした。ただ、HIPCの国々から債務を取り立て続けるとなると、永遠に経済的自立が期待できない状況でしたから、各国に同調し、このイニシア



ケルン：ドイツ西部、ノルトライン・ヴェストファーレン州にある商工業都市。ボンの北約30km、州都デュッセルドルフの南約40kmに位置する。ライン川流域最大の都市であり、鉄道や陸路が集まる交通の要衝でもある。世界最大のゴシック建築で町のシンボルにもなっている大聖堂や、有名な「ディオニソスのモザイク」をはじめローマ帝国時代の遺跡や美術品を展示し、サミットの首脳会合の舞台にもなったローマ・ゲルマン博物館など、ドイツの歴史や文化を知る上で欠かせない建造物や施設が数多くある。



G7首脳会合に臨む小淵総理(右)ら各国首脳(6/18)

タイプに参加することを決断したわけですが。ただ、債務削減を進めることによってHIPCの国々に経済改革を進めてもらわなければ困りますし、それによって何がしかの財政資金が浮けば、それを生産的な目的に使ってもらう必要があります。例えば、それで武器を買うというようなことになっては絶対にいけないわけで、そういった条件をはっきりと付けることにしました。

それから、日本と、次に大きなODA債権国であるフランスの二か国だけが大きな財政負担をして、ほかの国はあまり負担をしないのでは共同イニシアティブになりま

せん。HIPCの国々の債務を削減するということは、二国間のODA債権だけではなくて、世界銀行とかアフリカ開発銀行などから借りている分も削減しなくてはなりません。でも、世銀などの債権削減にはそのための資金が必要になってきます。日本やフランスは二国間ODAの削減で大きな財政負担をするわけですから、他のG7の国は、こちらのほうで少し余計に負担してもらいたい、そうすればG7間で公平な負担が確保できると話しました。イギリスやアメリカなども、何らかの対応を示唆しましたので、日本の主張は買けたと思います。今回の措置には一つの問題が含まれていて、それは途上国一般に対する借款の意義は何かということです。ややもすると、無償援助がいい、借款はもうやめたほうがいいという話になりがちですが、果たしてそれが適当かどうかという問題です。途上国一般の開発需要というのは非常に大きくて、それを無償援助で行えば、それはそれでいいのかもしれませんが、その場合、どの国も出せる金額はそれほど大きくないわけですね。

原口 借款という条件であるからこそ相当な金額が出て、それらをうまく使って、例えば必要なインフラを整備して経済発展を図るといったのが現実的な開発の手順です。アジアの国々には、特に日本の円借款を使って成功した例が少なくないわけですから、ソフトな条件の借款の意義は非常に大きいと思っています。

高橋 確かにそうですね。

原口 別に無償援助がいけないという意味ではなくて、借款をうまく利用し、自国の経済運営の強化に役立ててくれれば、借りた国にとっても結局はいいことになるし、経済発展に役立つわけです。日本自身も戦後、世銀などの借款を受けて経済成長してきたわけですし、アジアの国々にもそういう例がたくさんあるわけですから、ぜひ借款について正しい認識を持ってもらう必要があると思います。このことは、総理からも会議の席で強調されたところでした。

### ケルン憲章に盛り込まれた 多様な文化に対する理解促進

高橋 世界の人々にとって教育、技能などの重要性が高まっているということが強調



されたケルン憲章（教育に関する特別文書）が、六月十九日に発表されました。小淵総理は、世界規模での教育や生涯学習の重要性、在り方などについて提案されたと同じでしたが。

原口 今回のケルン・サミット全体を流れる共通のテーマは、グローバル化を人々の利益にどう結びつけていくかということでした。グローバル化が進むと経済が効率化してどんどん大きくなっていく、だからグローバル化を大いに進めるべしということになります。しかし、効率化は競争を通じて生まれてくるもので、その過程では競争に敗れる人々も生み出すという負の側面もあるわけ

です。

したがって、敗れていく人たちに對する手当ても併せて行わないと、グローバル化に對してネガティブな評価が出てきてしまいます。グローバル化を進める施策をとるとともに、それによつて生ずる社会の問題点に對しても適切な対応をとる、要するにグローバル化に對してバランスのとれた対応をすることが必要になってきます。G8コミュニケの中にも、「グローバル化に人間の顔を与える」ということが書いてあります。

グローバル化の時代は、技術革新が飛躍的に進む時代でもあるわけで、その中で自分の能力を十分發揮していくためには、常にその時代の要請に合うように自分の能力とか知識を向上させていかなければなりません。いま、コンピュータを使えないとやっていけないという時代になってきているでしょう。

高橋 そうですね。

原口 グローバリゼーションの時代に対応できる人、グローバル化が提供するいろいろな機会を効果的に活用できる資質を持った人を養成するためにはどうい

教育が必要かということです。それが、先ほどおっしゃった教育とか生涯学習をテーマに選んだ理由なんです。教育というのはただ単に学校で行うものではなく、社会に出てからも、人生のあらゆる局面で新しい時代の要請に對応できるように自己研鑽をしていかなければいけないし、企業は企業で、また政府は政府で、それらを助けていく必要がある、これがいまのグローバル化の時代における新しい教育の在り方であるということです。

高橋 小淵総理はユニークな教育論も展開されたと同じですが……。

原口 総理は、日本において教育の基礎は読み書き算盤だと言われてきた、しかし、それは昔の話であつて、グローバル化の時代では、外国語の教育とコンピュータを操る能力だ、これから日本もそれらに力を入れていかななくてはならないという話をされました。具体的には、学生や先生の国際交流ですね。日本にはJETプログラム（語学指導などを行う外国青年招致事業）がありますけれども、こういった事業をもっと拡大していく必要がある、また、生涯学習や産学協同といったことを更に進めて

いく必要があると主張されました。

グローバル化の時代は、様々な文化がぶつかり合う時代でもあるわけです。そういった時に、一つの文化がすべてを圧倒していくようなことをそのまま認めていいのかが、多様な文化に対する理解や敬意というものを育む心を教育の中に入れておくことが非常に重要なのではないかと思います。

文化がぶつかり合うところに革新とか創造性が生まれます。例えば、日本の浮世絵がフランスに紹介されて印象派にたいへんな影響を与えたり、アフリカの音楽がアメリカに渡ってジャズが生まれたり、アフリカの彫刻がキュービズムに影響を与えたり……。いろいろな文化があるからこそ生まれてくるものがある、そういうものを重視する心が大切ではないかという総理の主張は、アジアの国々にも相当支持されると思いますし、ケルン憲章の中にも反映されています。

## 地域紛争の解決に向け

### 国連安保理改革を改めて主張

高橋 冒頭でコソヴォのお話が出ました

が、コソヴォにおける真の和平の実現に關して、日本としてはどのような対応を表明されたのですか。

原口 日本には軍事的な貢献というオプションはないわけですが、今後、コソヴォや周辺国で、難民帰還への支援や復興支援という話が出てきた時には、日本も重要な役割を果たしていけると思います。

今回の紛争は、コソヴォという一地域の問題ではなくてグローバルな性格を持っています。G8は力のある国の集まりですから、自分たちに直接関係する地域の問題だけではなく、世界的な範囲で責任を負っていると思います。将来、不幸にしてアジアの地で似たような問題が起こった時に、コソヴォから遠い日本がコソヴォの問題に關与したのと同じような理由で、遠い国であるヨーロッパ諸国やアメリカにも自分の問題として關与してもらおう必要があると思います。

高橋 コソヴォのような地域紛争の解決について、日本はかねてから国連の重要性を訴えてきていますが、その点について、ケルン・サミットではどのように主張されたのでしょうか。

原口 国連が様々な問題に更に効果的に対応できるようにすることが重要で、そのためには国連安全保障理事会の改革が不可欠だというのが日本の立場です。今回、紛争の解決にG8が大きな役割を果たしましたが、安保理も当然重要な役割を果たしています。しかし、G8の中で大きな役割を果たしたドイツは、日本と同様に安保理の常任理事国のメンバーではありません。したがって、ドイツも日本も、安保理での議論になると参加できなかったわけです。恐らくドイツも、今回の経験を通じて安保理改革の必要性を感じたものと思います。日本としても、改めて安保理改革の重要性を主張したところです。

### 北朝鮮のミサイル開発に G8が強い懸念を表明

高橋 一方、アジアに目を向けますと、ロシア、北朝鮮、中国などを巡って、不安定要素や核開発の問題が存在していますね。アジアの安定についてはどのような主張あるいは提案をされたのですか。

原口 ロシアについてはそれほど心配していません。ただ、ロシアは核大国ですし、

これから軍縮、軍備管理が行われる中で、核兵器を解体し始めていますが、その解体に伴って、プルトニウムが出てきます。これをほうつておいて、また武器に転用されたり、他の国へ密かに流されたりしたらたいへんなことになりますから、余剰プルトニウムをどう安全に管理し、平和的に活用するかという課題が残っています。

それから、軍民転換といいますが、核開発にかかわってきた科学者などが民生部門で活躍できるよう協力するプログラムが必要ですが、ロシアもその重要性を認識していませんが、資金的な余裕がないので、G7の国々が積極的にロシアに協力していくことが必要です。

高橋 そういった面でのロシアに対する協力は、ある程度具体化しているのですが。原口 日本はロシアに対して、以前からこの面で独自の協力を進めてきています。例えば、極東地域にある退役原子力潜水艦を解体して、中にある核燃料を安全に管理する作業にも協力していますし、余剰プルトニウムを安全な燃料に転換するプログラムについても、いま、協力準備を進めているところですよ。

北朝鮮については、ご承知のとおりミサイル発射の問題があつて、これについては非常に心配しています。サミットでも、グローバルな問題としてミサイル拡散を防ぐ必要があるということをお日本が主張し、他の国も同調して、コミュニケーションで北朝鮮などのミサイル拡散に対する懸念を表明しました。

中国については、今後、建設的な関係をつくるよう努めるべきであり、そのためにはG8として、中国が有している懸念の払拭に努力しなければならぬということをお総理は話されました。中国がWTO（世界貿易機関）に早期に加入することが世界にとつても、中国にとつても好ましいことなので、できるだけ促進しようではないかという提案もされました。

この三か国について、それぞれ視点は違いますが、日本として主張しなければならぬことは会議の場で述べさせていただきました。また、アジア全体については、安全保障の観点ももちろんです。一方では経済協力の重要性もあります。日本はアジア経済危機が起きてから八百億ドルの援助を表明して、既に六百五十億ドルぐら

い実施済みです。アジアの一員でもある日本が主要なドナーになるのは当然として、ほかのサミット国にもいろいろな形での支援をお願いしました。

### グローバリゼーションについて 現実を踏まえ改めて議論

高橋 先ほど教育・生涯学習のところでも少し触れましたが、サミットのテーマになっているグローバリゼーションへの対応について、今回のサミットではどのような点が評価できますか。

原口 サミットの歴史を見てみると、「グローバリゼーション」という言葉が最初に出てくるのが一九八八年のトロント・サミットです。その後しばらく姿を消しますが、改めて現れてくるのが九四年のナポリ・サミットです。それからは毎年言及されるようになり、中でも、それが全面に掲げられたのが九六年のリヨン・サミットで、今回のケルンでも、若干事情は異なりますが、非常に大きなテーマとして掲げられることになりました。

グローバリゼーションの進展には様々な要素が絡んでいますが、一つは科学技術、



特に電気通信技術の飛躍的進歩が挙げられます。もう一つは、冷戦が終わって、市場経済圏が拡大したことです。ベルリンの壁が崩壊して、ソ連邦が解体されてロシアが市場経済に移行してきたのが非常に大きな要素で、それが定着し始めたのが九四年ごろだったということではないでしょうか。

高橋 だから、九四年のナポリ・サミットで再びグローバリゼーションという言葉が出てきたわけですね。

原口 そうです。九六年のリヨン・サミットでグローバリゼーションが大きなテーマになったのは、フランスの人は論理的な考察が好きですから、グローバリゼーションの意味合いを論理的にあれこれ分析した結果、サミットの中心テーマに掲げたのではないかと思えます。しかし、それはまだ頭の中での体操みたいなものでしたが、九七年にはアジア経済危機が起こり、その後ロシア、中南米と伝染してグローバリゼーションの持つリスクの側面が世界的な規模で姿を現しました。それがよつやく終息して、皆がこうした現実を踏まえてもう一度グローバリゼーションについて見直してみよう

という時期が、正に今回のケルン・サミットですね。グローバリゼーションは世界に大きなメリットをもたらすけれども、同時にマイナスの面もあるので、その両方の側面にどうバランスよく対応していくかが重要です。何でもかんでもグローバリゼーションを進めれば皆がハッピーになれるわけではないということです。

ケルンでは、グローバリゼーションがもたらす両方の側面に対して、具体的にどのようにバランスをとるべきかを議論しました。グローバリゼーションはこれからもまだまだ進んでいくでしょうし、グローバリゼーションが持つ意味合いも、今後もつといるいろいろな面で明らかになってくると思います。サミットですべて解答は出せませんが、現実を踏まえて皆が真剣に議論したことは、大きな成果だったと思えます。

### 九州・沖縄サミットは 日本の多様性を示す絶好の機会

高橋 さて、いよいよ来年は九州・沖縄サミットが開催されます。今後のサミットの意義や日本の役割について、どうお考えになりますか。



ドイツ政府主催レセプション会場で、クリントン米大統領に、来年のサミット開催地である沖縄県の稲嶺知事(後ろ姿)を紹介する小淵総理(6/18)

原口 コソヴォ問題でも明らかになったように、G8がたいへん効果的な仕組みであることが証明されました。グローバリゼーションが進むと、世界各国の相互依存関係が進み、かつ展開する速度も速くなります。また、その影響するところも、国境を超えて大きく広がっていくわけです。それらに有効に対処するには、非常に柔



ケルン大聖堂前で記念撮影に収まる各国首脳（6/19）。右からブレア首相（英）、サンテール欧州委員会委員長、ダレーマ首相（伊）、シュレーダー首相（独）、クリントン大統領（米）、シラク大統領（仏）、クレティエン首相（加）、小淵総理、ステパシン首相（露）

軟で果敢な決断、効果的な措置が必要です。G8は、経済的にも政治的にも影響力の大きな国の集まりですし、その国々の首脳が集まってトップダウンでもの事を決定するのですから、果敢な決断が可能ですね。しかも、首脳というのはどの国でも総合的に、横断的に、様々な分野を総覧する立場にいますので、その判断はバランスのとれたものになると期待できます。その意味では、

サミットの意義・役割は今後ますます大きくなっていくと思います。九州・沖縄サミットについては、これから二〇〇〇年代に移る区切りのいい年ですから、これにふさわしいテーマを議論できればと思います。まだ少し時間がありま

国にも興味のあるテーマでなければならぬものから、そこは今後の協議の中で決めていきます。

過去三回、東京でサミットが行われましたが、今度は初めて地方で、しかも沖縄でということですから、そのことを念頭に置いて、日本の風土や文化の多様性も大いに示さなければならぬと思いますね。サミットというのは一大イベントですから、首脳

の議論だけでなく、様々な文化行事もありますから、日本にもいろいろな側面があることを示す良い機会にもなります。高橋 二〇〇〇年に日本の沖縄で開かれるサミットということで、大変注目されるわけですが、アジアの中で唯一参加している日本の務めというものも注目されますね。原口 そうですね。日本は自国のこともさることながら、アジアの人たちの希望とか意見をよく聞いて、それをできるだけ議論に反映させていく責務もあります。アジアの人たちの気持ちを反映したサミットにしていかなければならないと思います。高橋 沖縄の素晴らしいところにも各国の人たちに注目してほしいですね。今日はどうもありがとうございました。